

株式会社 青森資源

平成30年度環境活動レポート

(対象期間:29年11月～30年10月)



作成日： 平成30年12月25日

I 環境方針

環境理念

株式会社 青森資源は、青森県全域で稼働し、地域社会に貢献する
「リサイクルチーム青森資源」を会社経営の基本理念とする。

環境保全への行動指針

昨今の自然資源の枯渇や地球温暖化等の環境悪化に鑑み
企業としての社会的な役割を果たすため、資源循環技術を活かし、全職
員が一丸となり豊かで美しい未来の実現に向けて、積極的に努力して
まいります。

このため、株式会社 青森資源は、下記のとおり金属、自動車
及び産業廃棄物の再生資源化及び環境負荷の取組、循環型社会の
実現に努めます。

1. 金属、自動車及び受入廃棄物の再生資源化の推進、廃棄物の削減
2. 二酸化炭素等の排出抑制
3. 節水、水の効率的利用及び水質汚濁防止等の推進
4. グリーン購入・販売の取組
5. 化学物質使用量の削減の取組
6. 環境関連法令の遵守
7. 環境美化及び地域社会への社会貢献活動の実施

作成日:平成25年4月10日

更新日:平成26年11月11日

代表取締役 加賀谷 栄徳

II 組織の概要

1 名称及び代表者名

株式会社 青森資源
代表取締役 加賀谷栄徳

2 所在地

030-0955
青森市大字駒込字桐の沢121番地3

3 環境管理責任者及び担当者

環境衛生委員会委員長 櫻庭 正

TEL 017-741-5252

FAX 017-741-5256

E-mail kagaya@aomorishigen.co.jp

4 事業活動の内容

再生資源回収業、産業廃棄物収集運搬業(積替えあり)、
産業廃棄物処分業、一般廃棄物収集運搬業(積替えあり)、
特別管理産業廃棄物収集運搬業(積替えあり)、
中古自動車販売業、中古自動車部品販売業

5 事業規模

資本金 1,000万円

活動規模

	単位	平成30年度
主要製品生産量	t	20,317
自動車引取台数	台	5,450
売上高	百万円	1,030
従業員数	人	41
敷地面積	m ²	29,477
積替え保管施設の面積	m ²	33.3
積替え保管施設の保管上限	kg	5,041

6 対象範囲(認証・登録範囲)

株式会社 青森資源の全組織及び活動

7 環境活動レポートの対象期間

平成29年11月～平成30年10月

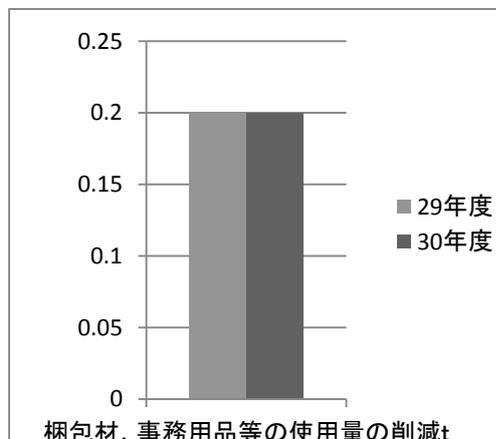
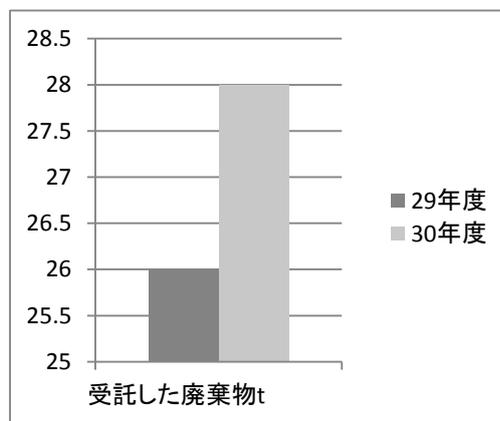
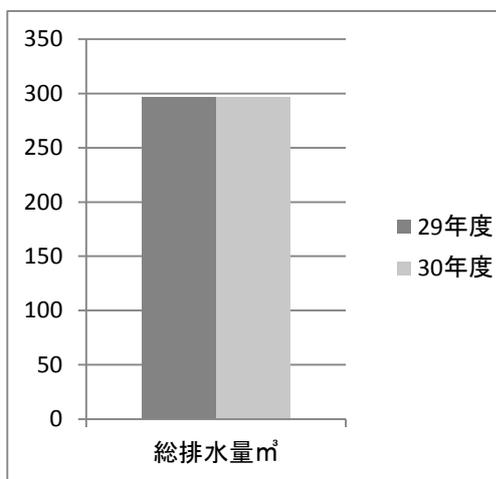
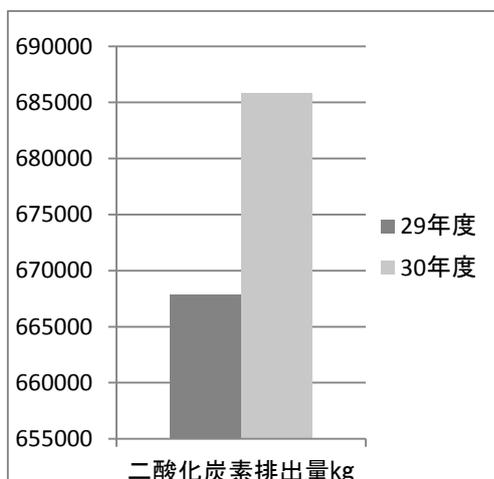
Ⅲ 環境目標とその実績

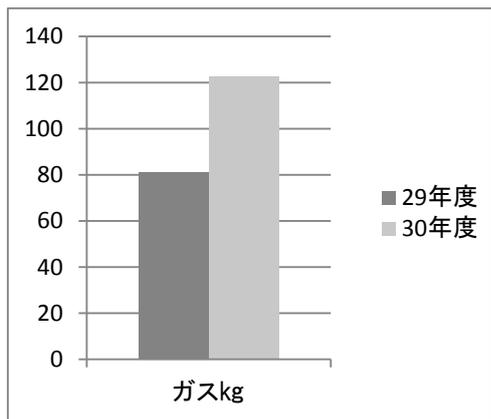
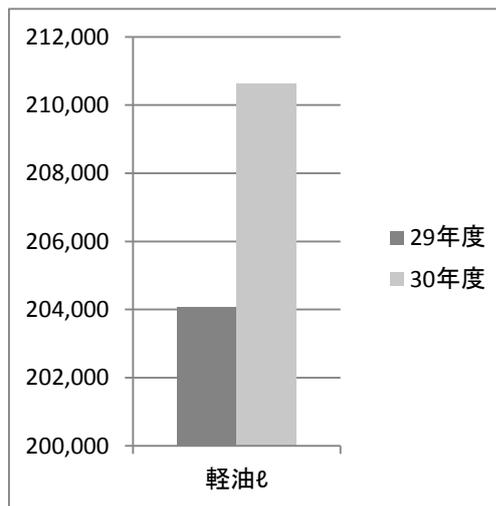
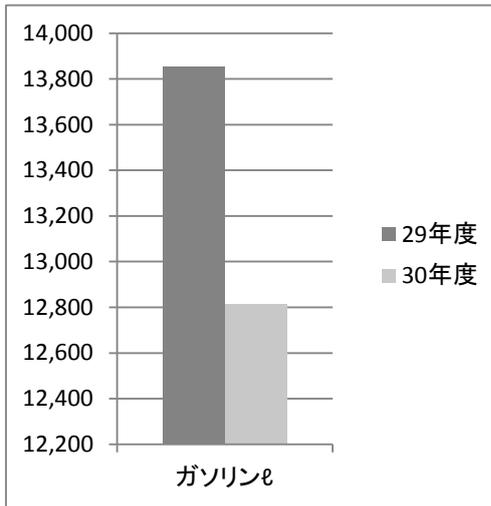
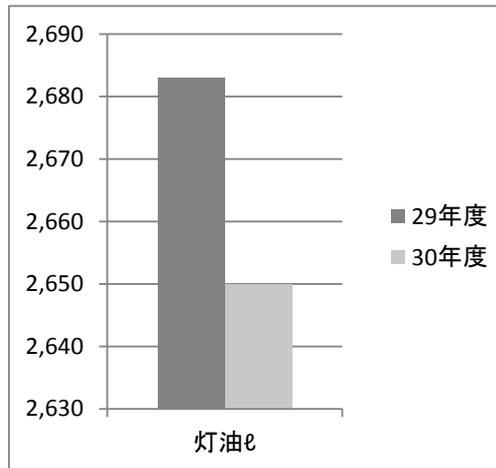
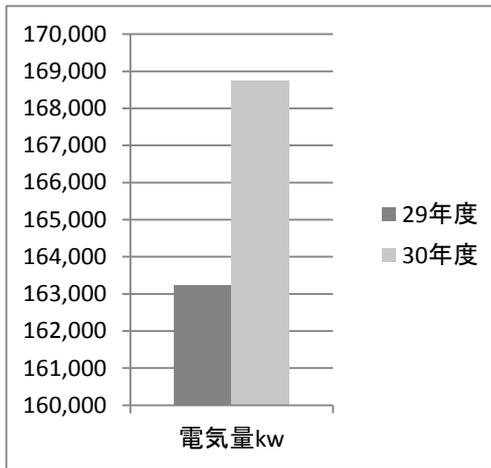
1 主な環境負荷の実績

表1、主な環境負荷等の実績

項目	平成29年度 (基準年)	平成30年度	平成29年度対比	備考
二酸化炭素排出量kg	667849	685814	103%	
総排水量m ³	296	296	100%	
受託した廃棄物t	26	28	108%	
再利用率%	22	22	100%	
梱包材、事務用品等の使用量の削減 t	0.2	0.2	100%	

項目	平成29年度(基準年度)	平成30年度	平成29年度対比	備考
電気量kw	163,251	168,740	103%	
灯油ℓ	2,683	2,650	99%	
ガソリンℓ	13,856	12,813	92%	
軽油ℓ	204,064	210,622	103%	
ガスkg	81	122.6	151%	





2. 環境目標の設定

コア指標	環境方針	環境目標項目	削減率又は増加率(%) 単位	基準年度 基準値	年度毎目標値 (基準年度に対する削減(増加))			中長期の目標 平成30年度～32年
					H30年度	H31年度	H32年度	
二酸化炭素排出量	省エネルギーの推進	電力の削減	削減率(%)	H29年度	1	2	3	3
			kwh	163,251	161,618	159,986	158,353	158,353
		灯油の削減	削減率(%)	H29年度	1	2	3	3
			L	2,683	2,656	2,629	2,603	2,603
		LPGの削減	削減率(%)	H29年度	1	2	3	3
	kg		81	80	79	79	79	
ガソリンの削減	削減率(%)	H29年度	1	2	3	3		
	L	13,856	13,717	13,579	13,440	13,440		
軽油の削減	削減率(%)	H29年度	1	2	3	3		
	L	204,064	202,023	199,983	197,942	197,942		
二酸化炭素排出量の削減	二酸化炭素排出量の削減	削減率(%)	H29年度	1	2	3	3	
kgCO ₂	667,849	661,171	647,947	628,509	609,653			
廃棄物排出量	一般廃棄物の削減	ごみの削減	削減率(%)	H29年度	10	13	15	15
			kg	3,296	2,966	2,868	2,802	2,802
	産業廃棄物の削減(自社分)	削減率(%)	H29年度	1	3	5	5	
t	26,650	26,384	25,851	25,318	25,318			
リサイクルの向上	再資源化率	再資源化率(%)	H29年度	98	98	98	98	
22								
総排水量	節水	節水	削減率(%)	H29年度	2	4	6	6
			m ³	296	290	284	278	278
化学物質		化学物質の管理推進	削減率(%)	H29年度	・化学物質を使用する場合は、漏洩等が無いよう適正に管理し、定期的に確認します。			左に同じ
0			kg	0				
グリーン購入	グリーン購入の推進	環境に配慮した事務用品等の使用を推進	増加率(%)	H29年度	3	4	5	5
			品目数	584	602	607	613	613
製品及びサービスに関する項目	環境に配慮した商品及びサービスの提供の推進	再生自動車部品販売	増加率(%)	H29年度	2	4	6	6
			t	5,364	5,471	5,579	5,686	5,686
		メタルリサイクル品販売	増加率(%)	H29年度	4	5	6	6
t	18,000	18,720	18,900	19,080	19,080			
地域貢献	地域貢献活動の推進	清掃活動等	増加率(%)	H29年度	3	4	5	5
			件数	12	12	12	13	13

3. 環境目標の実績

表3 当該年度の環境目標の達成状況等

※削減(増加)率は29年度比です。

項目	単位	基準年度 平成29年度	当該年度(平成29年11月～平成30年10月)		環境目標の 達成状況
			削減(増加) 率(%)	目標値 実績値	
二酸化炭素排出量	総量kgCO ₂	667,849	0	661,171 685,814	×
電力	kwh	163,251	0	161,618 168,740	×
灯油	ℓ	2,683	0	2,656 2,650	○
LPG	kg	81	0	80 122.6	×
ガソリン	ℓ	13,856	0	13,717 12,813	○
軽油	ℓ	204,064	0	202,023 210,622	×
総排水量	総量m ³	289	0	289 289	○
産業廃棄物排出量(自社分)	総量 t	26	0	26 112	×
受託した廃棄物の再利用率	再生利用率%	98	1	98 98	○

二酸化炭素排出量(電力)の算定に使用した排出係数は、0.571kg-CO₂/KWhです。

6項目において目標が達成出来なかった。

IV. 環境活動計画、取組結果とその評価、次年度の取組内容

1. 環境活動計画、取組結果とその評価、次年度の取組内容

二酸化炭素の排出の削減

電力及び総水使用量は解体処理や分別等の稼働率の増大によるものと、それに伴い事務処理の件数や事務所及び場内の電力の使用量が増大したものと思われます。
次年度は今以上に節電、節水を意識して電力と水量の削減につながるよう努力します。

梱包資材、事務用品等の削減

コピー用紙の裏の再利用やカートリッジ(詰替え)用の事務用品の購入や梱包資材の再利用によって削減出来ました。
次年度もこのペースで削減出来る様に努力していきます。

そのほかの取組結果とその評価については、下表のとおりです。

環境目標項目	取組内容	実施状況の評価	取組結果及び次年度の取組内容
再生利用率の向上	①廃棄物受入の再生ルートの調査	○	取引業者へスクラップEGが輸出EGとして出荷 明確な保管の為、積込時のスピードアップ 海外のバイヤーの販売の増加 整備工場へ燃料として売却 買取り業者へ売却する。 整備工場以外の販売の増加にも力を入れてゆく。
	②分別制度の向上のため各置場への分別保管の徹底	○	
	③中古自動車部品の販路拡大	○	
	④廃油のリサイクル	○	
	⑤廃バッテリーのリサイクル	○	
	⑥場内のパーツコンビニ部品のアイテム増大	○	
二酸化炭素の排出抑制 ・大気汚染等の防止	①アイドリングストップの実施	○	アイドリングストップの実施を行っているので、軽油とガソリンの使用量を削減できた。 最短ルートで運搬できる。 エコドライブの実施をしているので、軽油とガソリンの使用量を削減できた。 損傷の早期発見ができ、修理が出来るようになった。引き続き継続する。 エコカー2台購入
	②事前に地図で運搬ルートを確認する。	○	
	③エコドライブ実施による燃費の向上	○	
	④車両、重機、設備の日常点検、適正な設備の実施	○	
	⑤低燃費車の購入	○	
電力消費の削減	①使用しない電力は、こまめに消す。	○	マウントシャワーの使用の制限し、電気もこまめに消していたが
	②空調の適正温度(冬20度 夏28度)による電力削減	○	
	③休憩時間はコンプレッサーやプレス機の停止	○	
	④夏は自然風を取り入れる。	○	
	⑤長期休暇時は自動販売機の電源を切る	△	
廃棄物排出量の削減	①焼却ゴミの減量化	○	毎日分別してリサイクル 裏面利用及び梱包資材に再利用する事により購入量削減 廃車からの説明書、雑誌等をリサイクルする。 購入量の削減をすすめる。 廃棄の量が削減された。 温泉施設にて燃料として売却。処分量の削減を図る。
	②コピー用紙の再利用	○	
	③受入廃棄物のリサイクル	○	
	④梱包資材の再利用の徹底	○	
	⑤廃タイヤよりホイールを外し有価物にする。	○	
	⑥廃タイヤを燃料として使用	○	
総排水量の削減	①設備の管理、配管の破損が無いように点検する。	△	節水に取り組んでいる。
	②節水ステッカーを張り意識改革をする。	○	
	③水の流しっぱなしをなくする。	○	

○:評価出来る、△:まずまず評価できる、×:評価できない

2 環境活動の状況

梨の木道清掃活動



場内清掃活動



機械での事故防止の講習会



事務所前緑化活動



防災訓練



V 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、訴訟等の有無

廃棄物処理法、自動車リサイクル法等、環境関連法規は、定期的に遵守状況を確認しております。環境関連法規に関する違反は過去1度も有りませんでした。外部からの苦情は無し、関係機関からの違反等の指摘もありませんでした。

VI 代表者による全体評価と見直しの結果

今期は各項目の目標達成率非常に低い結果となってしまいました。特にLPGに関しては前年対比約40kg (ボンベ約6本分) 増加してしまいました。これはガス切作業が増えた為かと思われますが、少しでも減少するよう効率的な作業方法を模索していきたいと思えます。その他に、今年度は清掃活動、安全教育、災害訓練に力を入れることができたと思うのでより一層従業員の安全意識と清掃意識が高まったと思えます。今期の結果を踏まえて、社員一人一人の意識を改善させ、次年度には目標達成項目を増やせるよう努力したいと思います。

Ⅶ. 廃棄物処理に係る組織の概要

事業所名		株式会社青森資源				
代表者名		代表取締役 加賀谷栄徳				
所在地		青森市大字駒込字桐の沢121-3				
環境管理責任者		櫻庭 正				
エコアクション2.1担当者		青山 和貴				
連絡先		電話	017-741-5252	ファクス	017-741-5256	
		E-mail	kagaya@aomorishigen.co.jp			
		URL	http://www.aomorishigen.co.jp			
事業活動の内容		再生資源回収業、金属、非鉄金属、古機械工具器具備品類の買取り及びリサイクル業 産業廃棄物の収集運搬及び処分、特別管理収集運搬、 一般廃棄物の収集運搬、中古自動車買取販売、中古自動車部品の販売				
法人設立年月日		1978/7/21	資本金	1000万円	売上高 1030 百万円	
許可の内容	許可名/許可番号	年月日		事業計画・事業の範囲（事業区分、廃棄物の種類）		
	古物商 第2101001427	許可	昭和56年1月28日	再生資源回収業、金属、非鉄金属、機械工具器具類の買取り及びリサイクル業		
	産業廃棄物収集運搬(県) 第00200009602号	許可	平成25年11月12日	燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、動物系固形不要物、ゴムくず、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類(石綿含有産業廃棄物を含む) 積み替え保管有り(汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、鉱さい、がれき類、家畜ふん尿、家畜の死体、ばいじん、政令第2条第13号廃棄物石綿含有廃棄物を含む。水銀使用製品産業廃棄物)		
		有効	平成32年10月11日			
	産業廃棄物収集運搬(市) 第10812009602号	許可	平成30年11月29日	燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、動物系固形不要物、ゴムくず、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類(石綿含有産業廃棄物を含む) 積み替え保管有り(汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、鉱さい、がれき類、家畜ふん尿、家畜の死体、ばいじん、政令第2条第13号廃棄物石綿含有廃棄物を含む。水銀使用製品産業廃棄物)		
		有効	平成32年10月11日			
	産業廃棄物処分業(市) 第10822009602号	許可	平成30年8月1日	廃プラスチック類、金属くず(廃油及び廃プラスチック類は廃オイルエレメントに限る)、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、木くず(石綿含有産業廃棄物を除く)、廃プラスチック類(廃タイヤに限る) 廃蛍光管		
		有効	平成36年12月7日			
	特別管理産業廃棄物収集運搬(県) 第00250009602号	許可	平成30年4月23日	廃油、廃酸、廃アルカリ、感染性産業廃棄物、廃石綿等、廃PCB等(微量PCB及び低濃度PCBに限る) PCB汚染物(微量PCB及び低濃度PCBに限る)		
		有効	平成34年7月5日			
	特別管理産業廃棄物収集運搬(市) 第10862009602号	許可	平成27年8月21日	廃油、廃酸、廃アルカリ、廃石綿等 積み替え保管有り(廃酸)		
		有効	平成34年7月5日			
	一般廃棄物処理業(収集・運搬) 青森指令廃対第35号	許可	平成30年8月3日	可燃ごみ(厨芥類を除く)、不燃ごみ、資源ごみ、粗大ゴミ「特定家庭用機器再商品化法」で定める対象機器		
		有効	平成32年8月2日			
	第一フロン類回収 青I-125号	許可	平成29年6月13日	第一フロン類		
		有効	平成34年6月12日			
	引取業 第21081000002号	許可	平成29年4月2日	使用済自家用自動車の再資源化等		
		有効	平成34年4月21日			
	フロン類回収業(CFC, HFC) 第21082000002号	許可	平成29年4月18日	使用済自家用自動車の再資源化等		
		有効	平成34年4月16日			
解体業 第21083000002号	許可	平成26年9月11日	使用済自家用自動車の再資源化等			
	有効	平成31年6月30日				
破碎業 第21084000002号	許可	平成26年9月11日	使用済自家用自動車の再資源化等			
	有効	平成31年6月30日				
設備	設備名	能力・産廃の種類	台数	設備名	能力・産廃の種類	台数
	トラックスケール	60t	1	軽1BOX	営業車両	2
	トラックスケール	50t	1	普通乗用車	営業車両	2
	圧縮機	47t/8時間稼働	1	普通乗用車	エコカー	7
	切断機	39t/8時間稼働	1	ニブラ	39t/8時間稼働	2
	破碎機	廃プラ4.6/日本くず2.9t/日	1	ツカミ		3
	蛍光管破碎機	1.9t/8時間稼働	1	剥線機		1
	大型ツカミ	収集運搬	5	アリゲーター		1
	8tツカミ	収集運搬	2	フォークリフト		4
	2t箱型	収集運搬	1	フロン回収機		1
	4tユニック	収集運搬	2	選別機		1
	4tツカミ	収集運搬	1	マグネット		1
	積載車	収集運搬	2			
	大型セルフ	収集運搬	1			
	軽トラック	収集運搬	1			

処理方法・処理工程(メタルリサイクル部)

【処理施設】

圧縮機
産廃物の種類
処理能力

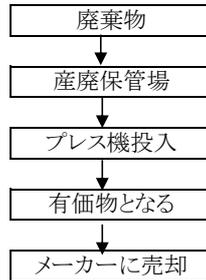
三方締金属圧縮機
金属くず他
47t/日(8時間稼働)

【処理施設】

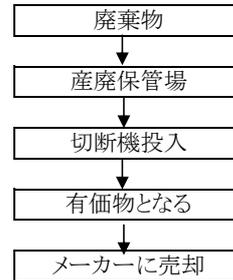
切断機
産廃物の種類
処理能力

マウントシャー
金属くず
49t/日(8時間稼働)

処理工程図



処理工程図



【処理施設】

切断機
産廃物の種類
処理能力

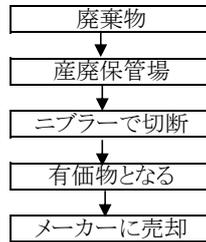
ニブラー
廃タイヤ 金属くず
金属 39t/日(8時間稼働)
廃タイヤ 160t/日(8時間稼働)

【処理施設】

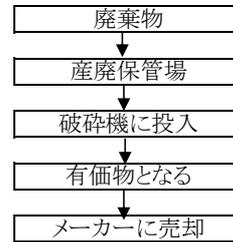
破碎機
産廃物の種類
処理能力

廃プラスチック類・4.6t/日(8時間稼働)
廃プラスチック類 2.9t/日(8時間稼働)
木くず

処理工程図



処理工程図



【処理施設】

切断機
産廃物の種類
処理能力

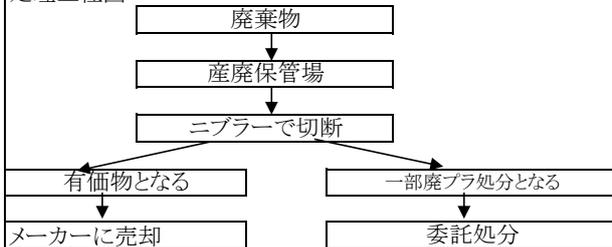
廃オイルエレメント
450個/日(8時間稼働)

【処理施設】

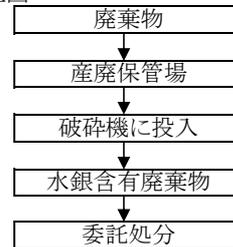
破碎機
産廃物の種類
処理能力

廃蛍光管
1.9t/日(8時間稼働)

処理工程図



処理工程図



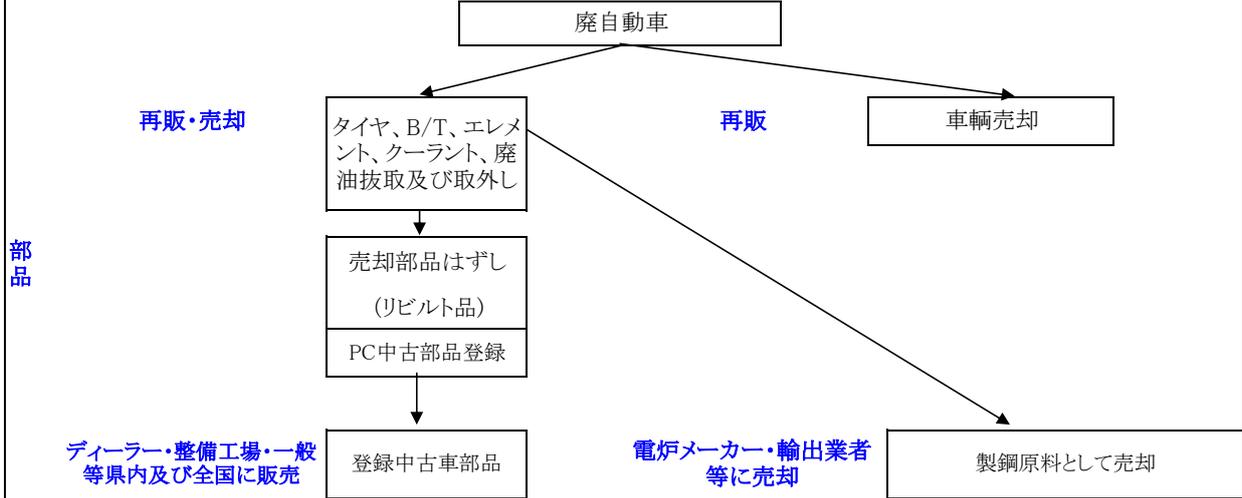
● 処分料金

※ 収集運搬料金

※ 処理料金

→ 廃棄物によっては、有価物扱いになる場合がある。
又、引取状態等、運搬距離、廃棄物の種類により異なるので、見積りによる。
→ 廃棄物によっては、有価物扱いになる場合があるので、見積りによる。

処理工程図



廃棄物の処理方法

1. 廃油
燃料として売却
 2. 廃タイヤ
中古タイヤとして販売
温泉施設のボイラーの燃料として売却
 3. バッテリー
中古バッテリーとして売却
宮城金属で鉛再生として売却
 4. フロンガス
カーエアコンシステムから冷媒として使用されているフロンR12(平成7年12月31日で製造禁止)を大気中に放出することなく「フロン回収機」で回収し、処理業者により処理をしてオゾン層破壊の防止、環境保全をいたします。
 5. 廃エレメント
自社で金属と廃油
 6. その他のゴミ
自社でプレス処理売却
- ※処理業者は、廃棄物処理資格・設備・経営等をチェックして委託します。
- 処分料金
 - ※ 収集運搬料金 → 廃棄物によっては、有価物扱いになる場合がある。
又、引取状態等、運搬距離、廃棄物の種類により異なるので、見積もりによる。
 - ※ 処理料金 → 廃棄物によっては、有価物扱いになる場合があるので、見積もりによる。

受託した産業廃棄物の処理量

平成30年度（平成29年11月～平成30年10月）

処理方法等	廃棄物等種類	処分方法等	処理量 t	
収集運搬	引取金属		8580	
	受託ガラス・陶磁器くず		4.5	
	受託汚泥（廃消火器）		0.05	
	受託木屑		64.8	
	受託紙屑		0.0	
	受託廃油		0.3	
	受託廃プラ		376.8	
収集運搬量合計			9026.5	
中間処理	持込金属	切断・圧縮・破砕	2640	
	引取金属	切断・圧縮・破砕	8580	
	木くず	破砕	30.0	
	廃プラ	圧縮・破砕	376.8	
うち再資源化等	持込金属	切断・圧縮・破砕	2640	
	引取金属	切断・圧縮・破砕	8580	
	木くず	破砕	30.0	
	廃プラ	圧縮・破砕	376.8	
	再資源化等量小計		11627	
中間処理合計			11627	
最終処分				
最終処分量合計			0.0	
中間処理後の産業廃棄物	最終処分	汚泥（消火器）	埋立	
	再資源化	受託ガラス・陶磁器くず		0.0
		受託汚泥（廃消火器）		0.0
		受託木屑		30.0
		受託紙屑		0.0
		受託廃油		0.0
		受託廃プラ		376.8
		再資源化等量小計		406.8
中間処理後処分量合計			406.8	

組織図

環境マネジメントシステム組織図

